法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-08-01

下斗米伸夫教授　略歴・業績一覧

(出版者 / Publisher)
法学志林協会
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
法学志林 / Review of law and political sciences
(巻 / Volume)
117
(号 / Number)
3・4
(開始ページ / Start Page)
7
(終了ページ / End Page)
67
(発行年 / Year)
2020-03-24

下斗米伸夫教授　略歴・業績一覧

〈生　年〉

一九四八年　札幌市生まれ

〈学歴等〉

一九七一年　東京大学法学部第三類（政治学）卒業
一九七一年七月　東京大学大学院法学政治学専攻修士課程入学
一九七三年四月　同博士課程進学
一九七五年　文部省派遣留学（旧ソ連邦モスクワ）（〜一九七六年）
一九七八年三月　東京大学大学院法学政治学専攻科修了（法学博士）

〈職歴等〉

一九七七年　立教大学法学部助手
一九七八年　成蹊大学法学部専任講師（一九七九年より助教授）
一九八三年　英国バーミンガム大学ロシア東欧研究センター客員研究員（〜一九八五年）
一九八五年　成蹊大学法学部教授

一九八八年―二〇一九年　法政大学法学部教授（比較政治論）
一九九二年　ハーバード大学ロシア研究所客員研究員（～一九九四年）
一九九三年　ウィルソン・センター招請研究員
一九九八年　朝日新聞客員論説委員（～二〇〇一年）
二〇〇二年　法政大学法学部長（～二〇〇三年）
二〇〇二年　日本国際政治学会理事長（～二〇〇四年）
二〇〇四年　日ロ賢人会議メンバー（～二〇〇六年）
二〇〇七年　プーチン大統領を囲むヴァルダイ・クラブ委員（～現在）
二〇〇八年―二〇〇九年　ＬＳＥ、ロシア東洋学研究所、韓国国民大学校各客員研究員
二〇一二年―二〇一五年　国際中欧・東欧研究協議会（ＩＣＣＥＥＳ）幕張世界大会（二〇一五年八月三～八日）組織委員長
二〇一五年　日本国際問題研究所客員シニア・フェロー
二〇一九年　法政大学名誉教授、神奈川大学特別招聘教授

〈非常勤講師〉

一九七九年―二〇一四年　立教大学法学部（比較政治論（二）、隔年）
一九八一年―一九九二年　東京都立大学（首都圏大学）法学部
一九八一年　東京大学教養学部（政治学）

一九八六年　京都大学文学部（集中講義）
一九八七年　東京大学法学部（比較政治論）
一九八七年九月　東北大学法学部（集中講義）
一九八七年一二月　名古屋大学法学部（集中講義）
一九八八年七月　神戸大学法学部（集中講義）
一九八九年七月　信州大学人文学部（集中講義）
一九八九年―一九九一年　慶応大学法学部
一九八九年―一九九一年　早稲田大学政経学部
一九八九年―二〇一九年　早稲田大学政経学部大学院（旧共産圏研究、ロシアＣＩＳ研究）
一九九五年　岡山大学法経学部（集中講義）
二〇〇六年　中央大学法学部
二〇一九年―二〇二〇年　筑波大学大学院人文社会科学研究科（ヨーロッパ政治、集中講義）

〈学会活動〉

日本政治学会、一九七六年―現在（うち理事一九九八―二〇〇四年）
日本国際政治学会、一九九〇年―現在（うち理事一九九二―二〇一六年、理事長二〇〇二―二〇〇四年）
日本平和学会、一九七八年―二〇一七年（うち理事一九九〇―一九九八年）
ロシア・東欧学会、一九八五年―現在（うち理事一九九七年―現在）

日本比較政治学会、一九八九年―二〇一七年
日本防衛学会、二〇〇八―現在（うち理事、二〇一一年―現在）
日本学術会議、第一九期連携会員（二〇〇六―二〇〇八年）

〈社会的活動〉

朝日新聞客員論説委員（一九九八―二〇〇二年）
対外文化協会理事（二〇〇五年―現在）
日ロ協会顧問（二〇〇九年―現在）

Ⅰ　著　作

『ソビエト政治と労働組合―ネップ期政治史序説』、一九八二年六月、東京大学出版会
「コルホーズ体制の危機と政治部の導入」（渓内謙『ソビエト政治秩序の形成』）、分担執筆、一九八四年三月、岩波書店
「スターリン体制下のモスクワ党組織」、分担執筆、一九八六年一〇月、和田春樹編著『ロシア史の新しい世界』、山川書店
『日ソ平和の条件』、分担執筆、一九八七年八月、にんげん社、進藤栄一と共編
『ペレストロイカを読む』和田春樹編、一九八七年九月、御茶の水書房、第六章第八章分担執筆
『ソ連現代政治』、一九八七年一〇月、東大出版会

『ヒューマン・ライトー今世界の人権は』、共訳、一九八八年五月、日本評論社、担当範囲：第五章「ソ連の空のもとに」、デイビット・セルビー編著

『ゴルバチョフの時代』、一九八八年五月二〇日、岩波書店

『ゴルバチョフの時代―サミット及び全党協議会後のソ連政治の行方』、一九八八年七月、ＮＩＲＡ国際研究交流部

'The Reform Movement: Power, Ideology, and Intellectuals' in "Gorbachev's Reformes, U. S. and Japanese Assessments" 分担執筆、一九八八年 ALDINE DE GRUYTER

'New Interpretation of the NEP and the Stalinist System under Glasnost' 分担執筆、一九八九、Slavic Research Center

'Repestroika, Glasnost and Society' in "Perestroika: Soviet Domestic and Foreign Policies" 分担執筆、一九九〇年三月、Sage publications

「ペレストロイカにとっての中国」、野村浩一編、岩波講座現代中国 別巻1（民主化運動と中国社会主義）、分担執筆、岩波書店、一九九〇年五月

高橋進と共編著『東欧革命―何が起きたのか、いつどこで』、一九九〇年四月、『世界―臨時増刊』一一―三一頁

『ソ連現代政治（第二版）』、一九九〇年七月、東大出版会

『社会主義の二〇世紀（二）』、分担執筆、一九九〇年一〇月、日本放送出版協会、担当範囲…一五七―二二四頁、和田春樹と共著

『社会主義の二〇世紀（四）』、分担執筆、一九九一年一月、日本放送出版協会、和田春樹と共著

『「ペレストロイカ」を越えて』、一九九一年六月、朝日新聞社

Moscow under Stalinist Rule. 1931–1934, 1991, Macmillane, St. Martins Press, NY.
『国際スパイ　ゾルゲの真実』、共著、一九九一年八月、角川書店、ＮＨＫ取材班
『新連邦の現在と将来』、一九九二年一月、尾崎行雄記念財団
『独立国家共同体への道』、一九九二年二月、時事通信社
『先進諸国の政治』、阿部斉と共著、一九九二年三月、放送大学教育振興会
「冷戦の終焉とソ連崩壊の後」、分担執筆、鴨武彦編『世紀間の世界政治（Ｉ）』一九九三年、日本評論社
『スターリンと都市モスクワ』、一九九四年五月、岩波書店
「第五章　ロシア政治と地域主義」（『講座スラブの世界』、木戸蓊『スラブの政治』）、分担執筆、一九九四年一〇月、弘文堂
「秩序としての社会主義の終焉」（『世界政治の構造変動1、世界秩序』）、分担執筆、一九九四年一一月、坂本義和編
Northern Territories and Beyond, James, E., Gooby, Vladimir Ivanov, Nobuo Shimotomai 共編者、一九九五年九月、Praeger
『先進諸国の政治』、高橋直樹、下斗米伸夫共著、一九九六年三月、放送大学教育振興会
『タタールスタンのエスノ政治』、一九九六年、スラブ研究センター調査報告書
『ロシア現代政治』、一九九七年一一月、東大出版局、全二三一＋一〇頁
New trends in Russian-Japanese relations at the start of the 21st Century 一九九九年二月、Sipri Nobuo Shimotomai
『ロシア世界』、一九九九年二月、筑摩書房、全三一二頁＋ix

『新世紀の世界と日本』（『世界の歴史』第三〇巻）北岡伸一と共著、一九九九年五月、中央公論新社、全四四六頁中、（一～一五八、三六三～四〇二頁）を担当

『二〇世紀世界の誕生』、五百旗頭真と共編者、二〇〇〇年六月、情報文化研究所

スターリン死去の前後―ソ連共産党の継承と闘争について、共著、二〇〇〇年六月、『ロシアで今映画はどうなっているのか』

『ロシア変動の構図』、下斗米編集責任、共著、二〇〇一年五月、法政大学出版会

『ソ連＝党が所有した国家』、二〇〇二年九月、講談社

「冷戦―クレムリンを動かした外交官たち」、羽場久美子・増田正人編『21世紀国際社会への招待』、分担執筆、二〇〇三年七月、有斐閣

「ロシアにおける政軍関係」、（横手慎二編『東アジアのロシア』）分担執筆、二〇〇四年五月、慶応大学出版会

『アジア冷戦史』、二〇〇四年九月、中央公論新書、韓国語訳、二〇〇五年一二月、翻訳者李革宰

『ヨーロッパの東方拡大』、羽場久美子、小森田秋夫、田中素香編、分担執筆、二〇〇六年六月、岩波書店

『モスクワと金日成―冷戦の中の北朝鮮（一九四五―一九六一年）』、二〇〇六年七月、岩波書店

『グローバル・ガヴァナンスの歴史的変容―国連と国際政治史』、緒方貞子、半澤朝彦編、分担執筆、「第四章、ソ連、国連と東アジア冷戦」二〇〇七年四月、ミネルヴァ書房

『グローバリゼーションとグローバル・ガバナンス』、鈴木佑司　後藤一美編、分担執筆、二〇〇九年三月、法政大学出版局

The Cold war in East Asia and the Northern Territories Problem, Kimie hara, Geofferey Jukes 分担執筆、二〇

○九年六月、Routledge
Kim Il Sen i Kreml'-Severnaya koreya epokhi kholodnoi voiny（1945–1961), Nov. 2009, MGIMO-Universitet
「タンデムクラシー試論―ロシア政治における制度化と『デモクラシー』（『ナショナリズムとデモクラシー』）田中浩編分担執筆、二〇一〇年三月、未来社
『新世紀の世界と日本（文庫版）』北岡伸一、下斗米伸夫共著、二〇一〇年六月、中央公論新社、担当範囲…一―四章、一〇章
The Cold War in East Asia, 1945–1991, chap. five, 'Kim Il Sung's Balancing Act between Moscow and Beijing, 1956–1972', Stanford university 分担執筆（分担部の翻訳は『法学志林』第一一六巻、第二・三合併号、一四一―一七六頁。二〇一一年三月）
『図説ソ連の歴史』、二〇一一年四月、河出書房新社
『社会主義的近代化の経験』、二〇一一年四月、小長谷有紀、後藤正憲編、「第九章　ボンチ・ブルエビッチとレーニン廟の思想」明石書店
『ロシア・拡大EU』分担執筆、二〇一一年四月、ミネルヴァ社、羽場久美子・溝端佐登史
『日本冷戦史』、二〇一一年一〇月、岩波書店
『現代ロシアを知るための六〇章』、二〇一二年一〇月、明石書店、担当範囲…一、一〇、一四、一五、四九、五〇、五二章、下斗米伸夫、島田博
『ロシアとソ連―歴史に消された者たち』、二〇一三年三月、河出書房新社
『日本の外交』第二巻、第四章分担執筆、二〇一三年三月、岩波書店、担当範囲…第二巻、第四章一九四五―九一年

の日ソ関係史、波多野澄雄〔編者〕
『プーチンはアジアをめざす』、二〇一四年一二月、ＮＨＫ新書
Japanese and Russian Politics, ed., Takashi Inoguchi, 2015, Palgrave and Macmillan chap. 3.2 'Politics of Dictatorship and Pluralism' 分担執筆、二〇一五年一月
『日ロ関係―歴史と現代』、下斗米伸夫監修、二〇一五年三月、法政大学出版局
『日本とロシア』、分担執筆、二〇一五年三月、原書房、猪口孝監修
「第九章　地域の中のロシア要因」（『朝鮮半島と東アジア』、二〇一五年六月、岩波書店、木宮正史編
『日ロ関係史』、共編者、二〇一五年九月、東大出版会、Ａ・トルクノフ、五百旗頭眞、Ｄ・ストレリツォフ、下斗米伸夫
『宗教・地政学から読むロシア―「第三のローマ」をめざすプーチン』、二〇一六年九月、日本経済新聞出版社
『ロシアの歴史を知るための五〇章』、編者、二〇一六年一一月、明石書店
『ソビエト連邦史一九一七―一九九一』、二〇一七年二月、講談社学術文庫
『アジア太平洋地域における経済連携とロシアの東方シフト』、編者、二〇一七年三月、日本国際問題研究所、担当範囲…序章「プーチン政治―二一〇六年の総括と二〇一七年の課題」
『神と革命』、二〇一七年一〇月、筑摩書房
『アステイオン創刊三〇周年ベスト論文選一九八六―二〇一六：冷戦後の世界と平成』、山崎正和、田所昌幸　総監修、ＣＣＣメディアハウス、二〇一七・一一、「逆説の現代史」
『二一世紀、大転換期の国際社会』、分担執筆「ロシアの正教和解はなぜ実現したか」、二〇一九年一月、法律文化社、

担当範囲…第九章

『ロシア正教古儀式派の歴史と文化』、分担執筆、二〇一九年一月、明石書房、担当範囲…「第七章、レーニンと古儀式派」

Nobuo Shimotomai and Dmitri Strelitsov, *A history of Russo-Japanese relations: over two centuries of cooperation and competition* (*Brill's Japanese studies library*; volume 66), Brill, 2019

II　翻　訳

『フルシチョフ権力の時代』、単訳、昭和五五年七月、お茶の水書房、ロイ・メドベージェフ

『我々の家ユーラシア』、その他、一九九九年二月、ＮＨＫ出版、ヌルブルタン・ナザルバエフ

『朝鮮戦争の謎と真実』、金成浩と監訳、二〇〇一年一一月、草思社

『金正日に悩まされるロシア』、共訳、二〇〇四年五月、草思社、アンドレイ・ペトロフ

『激動の十年』、原田長樹と共訳、二〇〇五年六月、ＬＨ洋光出版、ナザルバエフ

『スターリンから金日成へ』、共訳、二〇一一年一月、法政大学出版局、アンドレイ・ランコフ著、石井知章、下斗米伸夫（共訳）

『共産主義の興亡』、監訳、二〇一二年九月、中央公論新社、アーチー・ブラウン著、（共訳）伊熊幹雄、小田健、飯島一孝、石郷岡建、大野正美

III　論文、論説、翻訳

ソビエト経済制度の出現（R.W. Davies の翻訳）、一九七七年一二月、『思想』、六四二号、一七七六―一七九四頁
ソビエト労働者階級の社会構造（一九二五―一九二八年）、一九七八年一一月、『成蹊法学』、一三巻二五一―二九五頁
ソビエト労働組合（一九二五―一九二八年）―伝達紐帯の政治構造（一）、一九七九年八月、『国家学会雑誌』、九二巻三／四号一―三七頁
スターリン主義研究の視角と方法、一九八〇年三月、『歴史学研究』、四七八巻三五―四一頁
ソビエト労働組合（一九二五―一九二八年）―伝達紐帯の政治構造（二）、一九八〇年五月、『国家学会雑誌』、九三巻三／四号六五―一二七頁
ソビエト労働組合（一九二五―一九二八年）―伝達紐帯の政治構造（三）、一九八〇年五月、『国家学会雑誌』、九三巻五・六号六五―一二七頁
ソビエト外交とその内部批判者、一九八〇年一一月、『世界』、一二月号一七五―一八七頁
クバン事件覚書き（一）、一九八一年八月、『成蹊法学』、一八巻一三九―二〇五頁
クバン事件覚書き（二完）、一九八二年三月、『成蹊法学』、一九巻一―七三頁
モスクワにおける「右翼反対派」の敗北、一九八二年九月、『ソビエト史研究会報告』第一集一巻八七―一二九頁
スターリン政治体制下の地方統治機構、一九八三年九月、『成蹊法学』、二一巻二一―八五頁
Defeat of The Right Oposition in Moscow Party Organization: 1928, 1983, "*Japanese Slavic and East European studies*", vol. 4, pp. 15–34.
A Note on the Kuban Affair (1932–1933): The crisis of kolkhoz agriculture in the North Caucasus, 1983, "*Acta*

Slavica Iaponica", vol. 1, pp. 39–56.
Springtime for the politotdel, 1985, "*Acta Slavica Iaponica*", vol. 4., pp. 1–34.
社会主義の「矛盾」論争（一九八一―八四年）、一九八六年『国際政治（ソ連圏諸国の内政と外交）』、第八一号、九七―一一四頁
非スターリン化とソビエト政治体制―州第一書記と政治文化、一九八七年六月、『ソビエト史研究会報告』、第三集、三巻二三―三七頁
英国のソ連研究、一九八七年一〇月、『ソ連研究』、五号五一―五七頁
第五章　改革運動―権力、イデオロギー、そして知識人たち、（ピーター・ジュビラー、木村汎編、『ゴルバチョフのペレストロイカ』）、一九八九年一月、一五五―一七八頁
ペレストロイカと「歴史の見直し」の文脈、一九八九年四月、『ロシア史研究』、四七巻七〇―七五頁
権力分立―ソ連、一九九〇年一二月、『比較法研究』、第五二号四八―五八頁
Lenin i partiino-gosudarstvennaya sistema, "*Lenin i XX vek*", M, 1991 pp. 120–126.
ソ連邦崩壊の中の共産党　一九九〇―九一―社会主義イデオロギーの分解を中心に、一九九二年、『国際政治』、九九巻、二二―三六頁
新連邦の現在と将来、一九九二年一月、『尾崎行雄記念財団』、一〇五号一―五七頁
ＣＩＳ―統合と分解、一九九三年三月、『年報政治学』、四四巻一八七―二〇一頁
旧超大国の国際関係、一九九三年三月、『世紀間の世界政治』、日本評論社、第一巻
民主化、革命、そして移行、一九九三年五月、『社会科学の方法　八―政治空間の変容』岩波書店、一五二―一八七

頁

「秩序としての社会主義」の終焉、共著、一九九三年一一月、坂本義和編著『世界政治の構造変貌』第一巻　岩波書店、二四五―三一八頁

ロシア政治と地域主義、共著、一九九三年一一月、講座スラブの世界⑧『スラブの政治』弘文堂

エスノ革命の終焉とエスノ・ポリティックス（単著）、一九九五年一月、北大スラブ研究センター

The Yeltsin Phenomenon, "*Waseda Political Studies*", vol, 26, 1995, pp. 83–108.

ロシア、エリツィン改革の現状とその課題―政治の変革、一九九五年一二月、『南山大学ヨーロッパ研究センター報』創刊号、一巻一三―二二頁

一九九五年一二月、下院議員選挙、一九九六年一月、北大スラブ研究センター（北大・札幌）

ロシア改革の循環―利益分化と政治統合、一九九七年、『ロシア・東欧学会年報』、一九九七巻二六号一―九頁

Stalin and the Rise of Japanese Militarism, 1931–34、一九九八年、『法学志林』、九五巻三号一―二五頁

ロシア革命八〇周年・上下、一九九八年一一―一二号、UP、二〇―二四、二八―三三頁

ロシア改革研究への一視点、一九九九年三月、『日本比較政治学会年報』、一巻七七―九五頁

「政治の終焉」から政治学の再生へ―ポスト・ソ連の政治学、一九九九年三月、『年報政治学』、五〇巻一九―三四頁

ロシアの表社会と裏社会、一九九九年七月、『NIRA政策研究』、四〇―四三頁

逆説の現代史、一九九九年一一月、『アステイオン』、八三―九二頁

裏切られた移行？、二〇〇一年一一月、『ユーラシア研究』、二五巻三―九頁

ロシア政治と宗教、二〇〇二年六月、『東洋学術研究』、四一巻一号一三一―一五一頁

戦後ソ連の北東アジア政策、二〇〇三年二月、『法学志林』、一〇〇巻二号二七―六一頁
冷戦研究の周辺、二〇〇四年、『学術の動向』、九巻五号五八―五九頁
モスクワ外相会議（一九四五年一二月）再考（上）、二〇〇五年一月、『法学志林』、一〇二巻二号三七―六四頁
モスクワ外相会議（一九四五年一二月）再考（下）、二〇〇五年三月、『法学志林』、一〇二巻三・四合併号三―二四頁
プーチン後を模索するロシア？、二〇〇五年三月、『ロシア・東欧研究』、三四巻一四―二五頁
北東アジア冷戦と日本（一九四五―五六）、二〇〇五年九月、『外交史料館報』、一九巻一―二六頁
スターリン批判と金日成体制―ソ連大使館資料を中心に―、二〇〇五年一〇月、『法学志林』、一〇三巻一号一―七六頁
アジア冷戦とG・ケナン、二〇〇六年一月八日、『外交フォーラム』
George F. Kennan and the Cold War in Asia、二〇〇六年四月、“GAIKO Forum”
ロシアと日本―日露関係・過去、現在、未来、二〇〇六年一〇月、『日露戦争とポーツマス講和』（山梨学院創立六〇周年記念誌）
冷戦関連資料　鳩山訪ソに関するソ連資料・解説、共著、二〇〇六年一〇月、『法学志林』、一〇四巻一号一六三―一八四頁
スターリン批判とアジア、二〇〇六年一一月、『ユーラシア研究』、三五巻四二―四六頁
スターリン批判の地政学、二〇〇七年三月、『ロシア・東欧研究』、三五巻三―一二頁
権力と所有・ロシア型ヴァリアントをめぐって、二〇〇七年三月、『ロシアＮＩＳ調査月報』、二〇〇七年四号四―一

五頁

ロシア下院議員選挙とプーチン政治体制の変容、二〇〇八年四月、『レヴァイアサン』、四二号一二三―一四七頁

Kholodnaya voina v vostochnoi Azii i 'problem severnoi territorii' Polis, June 2008, pp. 11–22.

メドベージェフ・プーチンの二頭政治、二〇〇八年七月、『国際問題』、二〇〇八巻七／八号一〇―二〇頁

二つのロシア―古儀式派・ナショナリズム・国家、二〇〇八年一〇月、『聖学院大学総合研究所紀要』、四三巻四一―七八頁

Pyeongyang in 1956, "*Cold War International History Project Bulletin*", Washington, No. 16, December 2008, pp. 455–63.

ナショナリズムとデモクラシー（二）タンデムクラシー詩論―ロシア政治における制度化と「デモクラシー」、二〇〇九年二月、『未来』、五〇九号二四―三二頁

新・「危機の二〇年」ソ連崩壊二〇周年に寄せて、二〇〇九年一二月、『ロシアＮＩＳ調査月報』、五六号一―一〇頁

史料が語る日本外交（五）連合国ソ連代表部代表ヤコフ・マリク、二〇一〇年一月、『外交』、九四―九六頁

インタビュー「ロシアの変容とプーチン新体制の今後」（Ｔ・コルトンと）、二〇一〇年一月、『国際問題』、六一三号一―七頁

プーチンⅡ　保守的改革の再登場と課題、二〇一〇年一月、『国際問題』、六一三号八―一五頁

日ロ関係から見たエネルギー協力、二〇一一年九月、ERINA Report, pp. 57–59.

ウクライナをめぐるロシアの政治エリート（一九九二―二〇一四）、二〇一四年、『ロシア・東欧研究』、二〇一四巻四三号二一―四二頁

Bolsheviks, Soviets and Old Believers, "*Japanese Slavic and East European Studies*", vol. 35, March 2015, pp. 23–43.

古儀式派とソビエト連邦、二〇一七年四月、『法学新報』、一二四巻一・二号一六九―二〇一頁

労働組合論争・再論―古儀式派とソビエト体制の角度から（前半）、二〇一七年一〇月、『法学志林』、一一四巻二号二一九―二六七頁

労働組合論争・再論―古儀式派とソビエト体制の角度から（後半）、二〇一八年三月、『法学志林』、一一四巻三号二一九―二六七頁

中ソ対立と金日成（一九五六年―一九七二年）、二〇一九年二月、『法学志林』、一一六巻一・三合併号一四一―一七六頁

日ロ関係　歴史と現代、二〇一九年六月、経済倶楽部講演録、六八―一〇九頁

富田武氏の拙著への書評に関連して、二〇一九年九月、『ロシア史研究』、一〇三巻九六―一〇三頁

Ⅳ　エッセー・書評その他

書評、ロイ・メドヴェーデフ『社会主義的民主主義論』、一九七四年四月、『ロシア史研究』、二二巻八七―九〇頁

ソビエトの「政治」と「文化」―最近の三つの事例から、一九七八年一一月、『みすず』、一四―二五頁

ブハーリン復権運動の歴史的意味、一九七八年一一月二四日、『朝日ジャーナル』、二七―三二頁

ネクリッチ―ある異論派歴史家の近業、一九七九年六月、『創文』、一八六巻一二―一五頁

スターリン主義研究の視角と方法、一九八〇年三月、『歴史学研究』、四七八号三五―四一頁

ソビエト外交とその内部批判者、一九八〇年一二月、『世界』、一七五―一八七頁
もし集団化がなかったらソ連は（上）、一九八二年一一月、UP、一二一巻一一号二七―三一頁
政治・文化を停滞させた「回想録志向」の安定社会、一九八二年一一月二六日、『朝日ジャーナル』、七五―七九頁
もし集団化がなかったらソ連は…、一九八二年一二月、UP、一二二号二五―二九頁
座談会、軍縮の枠組みどう修復、岩島久夫、鴨武彦と座談会、一九八五年一〇月一四日、『朝日新聞』
こちらモスクワ、一九八五年一一月、UP、一六九号二二―二五頁
岐路に立つソ連政治（上）、ゴルバチョフ体制―継承か、転換か、一九八六年一月、『世界』、一七二―一九〇頁
Gオーウェルはソ連でいかに読まれたか、岐路に立つソ連政治（中）、一九八六年二月、『世界』、一一六―一二九頁
ソ連の今後を占う、一九八六年三月一一日、『読売新聞』、夕刊文化欄
体制革新の政治学―岐路に立つソ連政治（下）、一九八六年五月、『世界』、二一四―二三一頁
舞台も役者も装置も変わった、一九八六年一二月、『世界』、二一四―二三一頁
ゴルバチョフ政治、世論と手続き、一九八七年一月、『現代の理論』、二三三号一七―二七頁
ゴルバチョフ政権のペレストロイカ、一九八七年五月、『世界』、一九八七巻〇五号一二〇―一三三頁
ゴルバチョフの「第二革命」のテンポと展望、一九八七年七月、『現代の理論』、二三九巻五―一四頁
英国のソ連研究―経験主義とイデオロギーの間、一九八七年、『ソ連研究』、一〇号五一―五七頁
歴史の見直し　進めるソ連、白井久也との対談、一九八七年九月一七日、『朝日新聞』
「ペレストロイカをどう見るか」、一九八七年九月二七日、『産経新聞』
歴史の見直し進めるソ連、一九八七年九月、『朝日新聞』

政治改革と経済改革の間―ラスロ・サムエリとのインタビュー、一九八七年一一月、『世界』、一九八七巻一一号
ソ連社会主義のバランスシート、一九八七年一一月一七日、『エコノミスト』、二〇―二五頁
ペレストロイカと政治改革：一九八八、北大スラブ研究センター報告、一九八八年二月三日
ペレストロイカは後退したのか、一九八八年一月、『世界』、一〇―一四頁
「新しい思考」で弾みつくソ連外交、一九八八年四月一二日、『エコノミスト』、六〇―六六頁
「ペレストロイカの新しさ」、一九八八年六月二一日、『朝日新聞』夕刊、文化欄
試練のソ連政治改革、一九八八年七月六日、『読売新聞』夕刊、文化欄
ゴルバチョフの政治改革、一九八八年七月一四日、『山陽新聞』
ペレストロイカ見聞記、一九八八年八月、『公明』新聞、五頁
ペレストロイカと「新しい思考」、一九八八年一〇月、『中国研究月報』、一八―二七頁
「政治学的思考」の復権、一九八八年一一月、『世界』、二五〇―二六四頁
ゴルバチョフとペレストロイカ、一九八八年一一月、『社会運動』、一〇四巻二―二七頁
モスクワ一九八八年夏、一九八八年一一月、『国際交流』、四八巻六二―六五頁
中ソ和解の歴史的意義、一九八八年一二月、『現代の理論』、五―一九頁
外交のターゲットは東アジアに移った、一九八八年一二月二七日、『エコノミスト』、一二―一八頁
選挙・党・大統領―危機の中の政治変動、一九八九年三月二二日、『朝日新聞』
転換点のなかの中ソ和解、一九八九年五月二日、『信濃毎日新聞』
座談会　東からの『国際政治』変化の風、鴨武彦、岩島久夫、一九八九年五月、『朝日新聞』

体制立て直しを図る三〇年目の春、一九八九年五月、『朝日ジャーナル』、七五―七九頁
東側から国際政治変革の嵐（座談会、中嶋嶺雄、永井陽之助、鹿取泰衛と）、一九八九年五月一九日、『朝日新聞』
政治改革、一九八九年五月、『平和経済』、四二―五一頁
中ソ和解の歴史的課題、一九八九年五月二六日、『朝日ジャーナル』、七五―七九頁
今後の中国情勢は―苦悩する中国（一）、一九八九年六月六日、『東京大学新聞』、二七二九巻
ソ連　社会多元化のなかの改革、一九八九年六月二二日、『読売新聞』
高くついた対米重視外交―グロムイコ外交、一九八九年七月四日、『北海道新聞』
多元化革命の中のソ連・上、一九八九年七月、『世界』、一五三―一六七頁
多元化革命の中のソ連・下、一九八九年八月、『世界』、一〇五―一一八頁
党改革の正念場を迎えたソ連、一九八九年九月二六日、『エコノミスト』、二七―三一頁
社会主義の変容（五）―大衆が改革担う、一九八九年一〇月五日、『中国新聞』
社会主義の変容（六）、一九八九年一〇月六日、『中国新聞』
社会主義の変容―過渡期の課題が一挙に噴出、一九八九年一〇月一三日、『京都新聞』
ソ連ペレストロイカの問題点、一九八九年一一月、『月刊社会党』、一四四―一五〇頁
バルト「民族」問題の政治学、一九八九年一一月、『世界』、五七―六八頁
ペレストロイカ革命・一〇のテーゼ、一九八九年一一月、『月刊アサヒ』
「書評・グロムイコ回想録」、一九八九年一二月四日、『公明新聞』
ヤルタの壁は崩れたのか、鼎談、鴨武彦、高橋進、一九九〇年一月、『世界』、二三四―二四七頁

ソ連邦人民代議員地域間グループの綱領へのテーゼ、一九九〇年一月、『月刊社会党』、七二―八三頁（共訳）
改革の嵐、広く深く（座談会、佐藤経明、鴨武彦、村上薫）、一九九〇年一月一二日、『山形新聞』
改革批判強める保守派―新たなポピュリズムの台頭、一九九〇年二月二日、『朝日ジャーナル』、一〇七―〇九頁
直言、「東欧、真の改革は経済改革」、一九九〇年二月六日、『山形新聞』
生き残りかけたゴルバチョフの決断、一九九〇年二月二七日、『エコノミスト』、四六―四九頁
直言、「託された民主化への力」、一九九〇年三月二六日、『山形新聞』
新二月革命の下のソ連、一九九〇年四月、『世界』、二三―二五頁
ペレストロイカの五年、その概観、一九九〇年四月、『ソ連研究』、五―二四頁
ソ連の政治改革、新段階に、一九九〇年四月一三日、『北海道新聞』
ペレストロイカ危機の中の選択、一九九〇年五月、『世界』二二六―二三六頁
ドイツ統一問題の位相、一九九〇年五月八日、『山形新聞』
転換点のなかの中ソ和解、一九九〇年五月一七日、『信濃毎日新聞』
直言、「米ソ主導、変わる世界」、一九九〇年六月五日、『山形新聞』
政治党支配の起源と終焉、一九九〇年六月二〇日、『朝日ジャーナル』、二六―二九頁
直言、「西にも試練、東欧の改革」、一九九〇年七月九日、『山形新聞』
脱共産党のソ連政治（上）、一九九〇年九月、『世界』、一五二―一六三頁
新時代を迎える日ソ、一九九〇年九月八日、『北海道新聞』
直言、「日本の援助」、一九九〇年九月二〇日、『山形新聞』

ポスト共産党のソ連政治（下）、一九九〇年一〇月、『世界』、一五二―一六三頁
直言、「ソ連改革に拠点支援」、一九九〇年一一月五日、『山形新聞』
危機の中の政治改革―非常事態色が強い新連邦条約、一九九〇年一二月二五日、『世界週報』、一八―二一頁
「ポスト・ペレストロイカ」のソ連と日本、一九九一年一月、『潮』、八二―九一頁
直言、「異文化との対話重視」、一九九一年一月七日、『山形新聞』
視点、一九九一年一月、『週刊東洋経済』、一頁
直言、「九一年転換する世界」、一九九一年一月、『山形新聞』
バルト民族問題の政治学、一九九一年二月、『世界』、九六―一〇九頁
直言、「予断許さぬソ連情勢」、一九九一年二月一九日、『山形新聞』
保守派、改革派とも手詰まりのソ連危機、一九九一年二月、『週刊東洋経済』一頁
湾岸戦争とバルトの危機、一九九一年四月七日、『熊本日日新聞』
『ペレストロイカ』は終わった、一九九一年二月八日、『朝日ジャーナル』、二二―二五頁
謎に包まれた第一七回共産党大会、一九九一年二月、『歴史読本』、一二二―一二七頁
ペレストロイカ―中断か、転換か、一九九一年三月、『世界』、九六―一〇九頁
日ソの世論、現実性も、一九九一年三月、『読売新聞』
ソ連権力政治の転機、一九九一年三月、Fai, 一八巻六―九頁
世界の「安定」脅かす「改革」の遅れ―ジレンマのゴルバチョフ、一九九一年三月、『公明』、七二―七八頁
直言、「日ソが協力、未来開く」、一九九一年四月一一日、『山形新聞』

外務省に任せておけない私の領土問題処方箋、一九九一年四月一二日、『朝日ジャーナル』、一一―一五頁
ソ連外交と日本、一九九一年五月、『軍縮問題資料』、一二六巻六―一頁
森本忠夫、木村汎、田畑伸一郎、緊急座談会、「ゴルバチョフ来日と日ソ関係の新展開」、一九九一年六月、『潮』
日ソ関係の新段階、一九九一年六月、『公明新聞』、五頁
ソ連政治のあらたな座標、一九九一年六月、『世界』、三四―四九頁
月曜評論、「再び対ソ和解の季節」、一九九一年六月一〇日、『信濃毎日新聞』
直言、「対ソ支援は世界の流れ」、一九九一年六月二〇日、『山形新聞』
ゴルバチョフ大統領訪日の意味、一九九一年六月、『公明』、七〇―七六頁
ペレディシカかペレボロトか?―ペレストロイカの危機、一九九一年七月、『国際問題』、四二―四六頁
9プラス1とG7プラス1のリンケージ、一九九一年九月、『世界』二四一―二五五頁
直言、「国連加盟半島統一への礎石」、一九九一年八月一五日、『山形新聞』
ゴルバチョフ大統領の権威失墜、一九九一年八月二二日、『北海道新聞』
月曜評論、「クーデターの後」、一九九一年九月二日、『信濃毎日新聞』
共産党瓦解後のソ連新政治地図を読む、一九九一年九月三日、『世界週報』二六―二九頁
ソ連邦を解体する新ロシア革命、一九九一年九月六日、『朝日ジャーナル』、四―一二頁
どこへ行くソ連―コミュニストの世紀の終焉、一九九一年九月、『朝日新聞』
エリツィン新政治体制の強さと弱さ、一九九一年九月一〇日、『エコノミスト』誌、五五―五九頁
エリツィン体制のカギを握るロシア議会、一九九一年九月一七日、『世界週報』、二〇―二三頁

直言、「世界」変えるソ連の改革」、一九九一年九月二四日、『山形新聞』
新ロシア革命はどう展開するか、一九九一年一〇月、『世界』、二一—三一頁
ロシア民主化革命論、一九九一年一〇月、『月刊社会党』、一六二—六七頁
「主権国家連邦」成立の条件は何か、ソ連無き世界特集、一九九一年一一月、『世界』、六九—八〇頁
直言、「冷戦後の焦点、民族問題」、一九九一年一二月九日、『山形新聞』
悲劇の政治家—ゴルバチョフ、一九九一年一〇月、『週刊読売』、八六—八九頁
連邦かロシアか、一九九一年一一月一二日、『世界週報』、二四—二八頁
ソ連・激震の後の外交、軍事、経済、一九九一年一一月、『実業の日本』、六八—七二頁
大転換を迎えた新連邦と日本、一九九一年一一月、『軍縮問題資料』、一三二巻八—一三頁
新思考外交をこえて、一九九一年一二月、『世界』、一三二—一三九頁
民族主義の対立顕在化も、一九九一年一二月三日、『日本経済新聞』
ヤブリンスキー対談、「ソ連邦解体と今後の展望」、一九九一年一二月八日、『東京新聞』
「主役の座」降りたソ連、一九九一年、『アサヒグラフ』、三五八二巻四六—四七頁
同床異夢の共同体、一九九一年一二月二三日、『毎日新聞』
ゴルバチョフ時代の終わり、一九九一年一二月二五日、『読売新聞』
「中央の調整機能」が焦点に、一九九二年一月七日、『エコノミスト』、三三頁
混迷深い「新連邦」の行方、一九九二年一月、『市政』、四一巻一号一〇八—一一一頁
連邦は死んだ、ロシアへの再結集なるか、一九九二年一月七日、『世界週報』、二〇—二三頁

山陽時評、「前途多難なロシアと共同体」、一九九二年一月、『山陽新聞』
月曜評論、「ソ連崩壊からロシアへ」、一九九二年一月一八日、『信濃毎日新聞』
綱渡りの独立国家共同体、一九九二年二月、『公明』、一四―二一頁
「ポスト・ソ連」を決めるものは何か、一九九二年二月、『世界』、一二二―三一頁
日曜論壇、「日露関係の今後」、一九九二年二月二日、『熊本日日新聞』
特集「ソ連邦消滅」、一九九二年三月、『情況』、三巻二号五九頁
直言、「内政重視時代の外交」、一九九二年二月一七日、『山形新聞』
エリツィン政治の構図、一九九二年四月、『世界』、五三―六三頁
月曜評論、「ロシアとエリツィン」、一九九二年四月二〇日、『信濃毎日新聞』
直言、「ロシア改革促す支援」、一九九二年四月二一日、『山形新聞』
ソ連邦消滅における変化と持続の関係（書評論文）、一九九二年五月、『エコノミスト』、一一四―一一六頁
連邦崩壊後の現状と今後の課題、一九九二年五月、『ファイナンス』、四〇―五八頁
エリツィン現象、一九九二年五月、「日ロ政治学者の会」モスクワ・ゴルバチョフ財団
直言、「息の長い対露支援に」、一九九二年六月二三日、『山形新聞』
月曜評論、「不安定なエリツィン統治」、一九九二年七月一三日、『信濃毎日新聞』
旧ソ連・東欧問題と積極的平和、一九九二年七月、『東京新聞』
直言、「領土」ロシア国内問題に」、一九九二年八月二五日、『山形新聞』
日曜論壇、「ロシアの危機と訪日」、一九九二年八月三〇日、『熊本日日新聞』

エリツィン権力―変動の行方、一九九二年一〇月、『世界』、一二二―三二頁
直言、「日ロ関係とアメリカ」、一九九二年一〇月二二日、『山形新聞』
エリツィン政権のロシアと日本の対応、一九九二年一一月、『潮』、九六―一〇五頁
月曜評論、一九九二年一〇月五日、『信濃毎日新聞』
「肌で感じたアメリカ上」、一九九二年一一月八日、『公明新聞』
「肌で感じたアメリカ中」、一九九二年一一月一五日、『公明新聞』
「肌で感じたアメリカ下」、一九九二年一一月二二日、『公明新聞』
日曜論壇、「現地にみた米新政権」、一九九二年一一月二九日、『熊本日日新聞』
直言、「転換期の世界情勢」、一九九二年一二月二二日、『山形新聞』
岐路に立つエリツィン政権、一九九二年一二月一三日、『山陽新聞』
日曜論壇、「動き出したクリントン外交」、一九九三年一月三一日、『熊本日日新聞』
ロシア選挙から新連邦へ、一九九三年一月、『世界週報』
危機深まったエリツィン政治、一九九三年三月、『岐阜新聞』
直言、「米国のペレストロイカ」、一九九三年一月二五日、『山形新聞』
山陽時評、一九九三年三月一四日、『山陽新聞』
直言、「混迷深めるロシア」、一九九三年三月三〇日、『山形新聞』
エリツィン政権の〝終わりの始まり〟、一九九三年四月二七日、『エコノミスト』
月曜評論、国民投票後のロシア、一九九三年四月二〇日、『信濃毎日新聞』

JAPAN'S Russia Policy and the October 1993 Summit、一九九三年五月、米国平和研究所　国際会議　ワシントン

政治不安は構造的、一九九三年三月三〇日、『北海道新聞』

ポスト・ソビエト政治は転換できるか？、一九九三年五月、『世界』、一三七―一四六頁

国民投票後の焦点は何か？、一九九三年六月、『世界』、一一五―一一九頁

モスクワの悲劇―傷ついた市民社会、一九九三年一〇月五日、『信濃毎日新聞』

エリツィンはパンドラのボックスを開けた、一九九三年一一月一六日、『世界週報』、一〇―一五頁

ジリノフスキー現象、一九九三年一二月二一日、『熊本日日新聞』

両極分解は危険な状況、一九九三年一二月一四日、『北海道新聞』

ロシア・ＣＩＳの変貌、一九九三年一二月、南山大学ヨーロッパ研究所開所記念シンポジューム

エリツィン現象―ゆらぎから崩壊へ？、一九九四年二月、『世界』、一〇四―一一二頁

ロシアを失ったのはだれか、一九九四年二月六日、山陽時評

熾烈なロシアの権力闘争、一九九四年四月、『ブリタニカ年鑑94』

ボスニア紛争と国連、一九九四年五月一日、『山陽新聞』

ポスト・ソ連政治は転換できるか、一九九四年五月、『世界』、一九九四巻五号

ボスニアの内乱、潮流94、一九九四年一〇月八日、『信濃毎日新聞』

ポスト冷戦の断層（一）―改革の暗部の象徴ボスニア、一九九四年一〇月一三日、『読売新聞』

ポスト冷戦の断層（二）―ロシア改革の幻想覚めた米、一九九四年一〇月一三日、『読売新聞』

ポスト冷戦の断層（三）―「民族」移動自由の思い込み、一九九四年一〇月一七日、『読売新聞』
ポスト冷戦の断層（四）―民族主義の時代終る、一九九四年一〇月一八日、『読売新聞』
旧ソ連の民族問題、一九九四年一〇月、日本平和学会
ポスト冷戦の断層（五）「ドリナ河畔での旅愁」、一九九四年一〇月一九日、『読売新聞』
直言、「既成の政治に不満」、一九九四年一一月一四日、『山形新聞』
エリツィン政権の二期、一九九四年、『ＴＢＳブリタニカ年鑑』
日露関係をどう切り開くか、一九九四年一二月二三日、『毎日新聞』
直言、「チェチェンの悲劇」、一九九五年一月二六日、『山形新聞』
チェチェン紛争の原因と行方、一九九五年二月、『世界』、七八―八二頁
ボスニア紛争と国連、一九九五年三月一九日、『山陽新聞』
ロシアの支配潮流が変わった、一九九五年三月二一日、『世界週報』、二〇―二五頁
直言、「世紀末の世界を握る」、一九九五年三月二五日、『山形新聞』
ソ連学を超えて、一九九五年四月、『ロシア研究』、一五〇―一六八頁
直言、「ロシアはどこへ行く」、一九九五年五月二五日、『山形新聞』
「大国」ロシアの改革、一九九五年六月四日、『朝日新聞』
王様は去って、王党派は残った、一九九五年六月、『波』
直言、「アジア安保へ積極関与」、一九九五年七月二四日、『山形新聞』
月曜評論、「ロシア・国家と科学の危機」、一九九六年九月一一日、『信濃毎日新聞』

直言、「ボルガからの視点」、一九九五年九月一六日、『山形新聞』
直言、「残念な明石氏の辞任」、一九九五年一〇月三〇日、『山形新聞』
エリツィン改革の危機、一九九五年一〇月一四日、『信濃毎日新聞』
直言、「中途半端、混迷の九五年」、一九九五年一二月二一日、『山形新聞』
ロシア連邦の新『潮』流、一九九五年一〇月、ロシア東欧学会公開基調報告（大阪府立大）
ポスト・エリツィンへの移行？、一九九六年一月、『世界』、一五八―一六二頁
ロシア大統領選挙の行方、一九九六年一月、『聖教新聞』
月曜評論、「日ロ関係―大胆な改革を、一九九六年二月二一日、『信濃毎日新聞』
ポスト社会主義でなぜ共産党は強いか、一九九六年二月、『世界』、六五―七〇頁
直言、「試行錯誤続けるロシア」、一九九六年三月一一日、『山形新聞』
代行職のチェルノムイルジンは支持をまとめきれるか、一九九六年一月、『世界週報』
大統領選挙は「二極か、三極か」、一九九六年四月二六日、『世界週報』、一二―一六頁
直言、「チェルノブイリ事故一〇年」、一九九六年四月二五日、『山形新聞』
月曜評論、「絹の道の国際関係」、一九九六年五月一三日、『信濃毎日新聞』
改革による亀裂象徴、一九九六年六月一八日、『東京新聞』
直言、「救世主現れぬロシア政治」、一九九六年六月二七日、『山形新聞』
エリツィン、ジュガノフで決選投票、一九九六年六月二八日、『週刊金曜日』、一七―一九頁
月曜評論、「大統領決選のカギを握るもの」、一九九六年七月一日、『信濃毎日新聞』

大統領選挙とロシアの変化、一九九六年七月、国際問題研究協会　月例研究会「ロシアはどこへ行くのか」、一―八頁

レベジ将軍に握られたロシアの命運、一九九六年七月二日、『エコノミスト』六四―七頁

爆弾を抱えてスタートした第二期エリツィン政権、一九九六年七月一二日、『週刊金曜日』、九頁

再選果たしたエリツィンを待つ受ける暗雲、一九九六年七月二三日、『世界週報』、六―七頁

ロシア大統領選挙、一九九六年八月、『世界』、一三八―一四二頁

直言、「権威主義から民主化へ」、一九九六年八月一九日、『山形新聞』

ロシアの大統領選挙（下）、一九九六年八月、『国際労働運動』、三〇〇巻〇七／〇八号、一九九頁

ロシアの環境問題と安全保障、一九九六年八月、『軍縮問題資料』、一六―二三頁

月曜評論、「ロシア・権力と病気」、一九九六年九月一一日、『信濃毎日新聞』

直言、「流動的、見えぬ後継者」、一九九六年九月三〇日、『山形新聞』

直言、「関係改善、飛躍の段階」、一九九六年一二月九日、『山形新聞』

月曜評論、「変わるロシアの対日観」、一九九七年一月一五日、『信濃毎日新聞』

ロシア政局混迷の様相、一九九七年一月、『公明』新聞

現実主義に希望の光、視点、一九九七年一月、『朝日新聞』

混沌ロシア政界、一九九七年二月四日、『エコノミスト』、四三―四五頁

直言、「ロシアに政治変動も」、一九九七年二月一三日、『山形新聞』

直言、「安定的な移行を研究―北朝鮮の市場経済化」、一九九七年四月一四日、『山形新聞』

ＮＡＴＯ拡大と安全保障―ロシアの孤立感が深まる、一九九七年六月、『聖教新聞』
直言、「ＮＡＴＯ拡大、合意の意味」、一九九七年六月九日、『山形新聞』
Ｇ８入りしたロシア、一九九七年六月二四日、『読売新聞』
ロシアが模索するユーラシアの新しい戦略構図、一九九七年八月五日、『世界週報』、一二―一五頁
直言、「日ロ間に吹く、新しい風」、一九九七年八月一四日、『山形新聞』
直言、「日ロ首脳会談を前に」、一九九七年一〇月一八日、『山形新聞』
月曜評論、「日米中ロ新共存関係を、一九九七年一一月三日、『信濃毎日新聞』
直言、「四国協調の兆し生かせ」、一九九七年一二月二〇日、『山形新聞』
直言、「日ロ関係改善の好期―カギはイラク危機克服」、一九九八年二月二八日、『山形新聞』
反感招いた権限強化、一九九八年三月二四日、『北海道新聞』
インタビュー　一線超えた首相、一九九八年三月二四日、『毎日新聞』
窓、「将軍の抵抗」、一九九八年四月四日、『朝日新聞』
二一世紀の協調づくり始動―川奈会談、一九九八年四月二〇日、『朝日新聞』
窓、「異色大使」、一九九八年五月一六日、『朝日新聞』
「国境画定」方式で北方領土交渉はいよいよ核心へ、一九九八年五月一九日、『世界週報』六―九頁
直言、「正当化できぬ印パキ核実験」、一九九八年五月二九日、『山形新聞』
窓、「ゴルチャコフ外相」、一九九八年六月一〇日、『朝日新聞』
潮流98、「ＩＭＦ方式破綻―ロシア危機」、一九九八年八月三〇日、『信濃毎日新聞』

窓、「踊らされず」、一九九八年九月〇四日、『朝日新聞』
窓、「バラが咲いた」、一九九八年一〇月〇二日、『朝日新聞』
窓、「異論派」、一九九八年一〇月二三日、『朝日新聞』夕刊
直言、「ロシア政治　激動の兆し」、一九九八年一〇月二三日、『山形新聞』
金融と政治が同時崩壊したロシア、一九九八年一〇月二七日、『世界週報』一二―一五頁
国際政治からみた日本政治―日ロ関係から、一九九八年一一月、『神奈川大学評論』
潮流、日ロ関係の国際文脈、一九九八年一二月八日、『信濃毎日新聞』
窓、「今はむかし」、一九九八年一二月八日、『朝日新聞』夕刊
国際化された二〇〇〇年までの日ロ関係、一九九八年一二月二五日、『世界週報』一〇―一三日
直言、「立ち止まるな日ロ改善」、一九九九年一月二日、『山形新聞』
窓（伸のペンネーム）、「二つの祖国」、一九九九年三月三日、『朝日新聞』夕刊
窓、「国歌法制考」、一九九九年三月二〇日、『朝日新聞』夕刊
窓、「歴史の類比」、一九九九年四月一日、『朝日新聞』
潮流、大国の限界　コソボ問題、一九九九年四月七日、『信濃毎日新聞』
直言、「コソボ解決、日本も役割」、一九九九年四月九日、『山形新聞』
窓、「学園都市」、一九九九年五月一二日、『朝日新聞』
窓、「二世の宿命」、一九九九年六月八日、『朝日新聞』
直言、「ロシアに変化の兆し」、一九九九年七月二日、『山形新聞』

ロシアの表社会と裏社会―あるいは移行論の背理、一九九九年七月、『ＮＩＲＡ政策研究』、一二巻〇七号四〇―四四頁
「移行の危機」、混迷深まるロシア、一九九九年八月二日、『朝日総研レポート』、一三九巻九号四―二一頁
窓、「火消し」、一九九九年八月四日、『朝日新聞』
潮流、「ケナン老外交官の洞察」、一九九九年八月一九日、『信濃毎日新聞』
窓、「ライサさん」、一九九九年八月二五日、『朝日新聞』
窓、「ポリゴン」、一九九九年九月一一日、『朝日新聞』
直言、「末期のエリツィン政権」、一九九九年九月二八日、『山形新聞』
窓、「予測できぬ過去」、一九九九年一一月一日、『朝日新聞』
冷戦後の十年、一九九九年一一月、『信濃毎日新聞』
窓、「学者ブレーン」、一九九九年一一月三〇日、『朝日新聞』
Japan and the War in Kosovo, December 1999, Japan Quarterly, 四六巻四号一〇―一六頁
直言、「歴史に名を残せるか」、一九九九年一二月一七日、『山形新聞』
窓、「希望療育園」、一九九九年一二月二二日、『朝日新聞』
エリツィン時代が終わった、二〇〇〇年一月四日、『信濃毎日新聞』
選ばれた皇帝が去った、二〇〇〇年一月、『公明』新聞
窓、「ハザール王国」、二〇〇〇年一月一二日、『朝日新聞』
窓、「新年作戦」、二〇〇〇年二月一日、『朝日新聞』

窓、「ハーバード」、二〇〇〇年二月二八日、『朝日新聞』
窓、「ロシアの懐」、二〇〇〇年四月一三日、『朝日新聞』
窓、「補佐官の見立て」、二〇〇〇年三月一七日、『朝日新聞』
直言、「安定してきたロシア―プーチン新政権へ」、二〇〇〇年三月二四日、『山形新聞』
プーチン新大統領の課題、二〇〇〇年三月三一日、『信濃毎日新聞』
窓、「東と西の間」、二〇〇〇年四月二六日、『朝日新聞』
窓、「日ロ関係周期説」、二〇〇〇年五月一日、『朝日新聞』
窓、「スターリン後」、二〇〇〇年五月一一日、『朝日新聞』
窓、「アレクシー二世」、二〇〇〇年五月一九日、『朝日新聞』
直言、即時統一より体制共存、二〇〇〇年六月六日、『山形新聞』
窓、「政治風刺」、二〇〇〇年六月一〇日、『朝日新聞』
窓、「ねじれた歴史」、二〇〇〇年八月一日、『朝日新聞』
窓、「事故の余波」、二〇〇〇年八月一九日、『朝日新聞』
直言、「核対立の後始末できず」、二〇〇〇年八月二五日、『山形新聞』
窓、「チムール神話」、二〇〇〇年九月四日、『朝日新聞』
窓、「風の街」、二〇〇〇年九月二八日、『朝日新聞』
エリツィン時代―ある評価、二〇〇〇年一〇月、『ロシア研究』、三一号一〇〇―一一三頁
窓、「フィリポフ」、二〇〇〇年一〇月五日、『朝日新聞』

プーチン政権の安全保障観、二〇〇〇年一一月、『軍縮問題資料』、六―一一頁
直言、「理想探す思想に限界」、二〇〇〇年一一月二一日、『山形新聞』
窓、「大統領の回想」、二〇〇〇年一二月一日、『朝日新聞』
市場システムへの長い道、二〇〇〇年一二月、『国際問題』、二二―三六頁
窓、「金剛山観光」、二〇〇〇年一二月七日、『朝日新聞』
窓、「ダボスの出来事」、二〇〇一年一月二三日、『朝日新聞』
快進撃のプーチン政権、二〇〇一年一月二四日、『信濃毎日新聞』
直言、「米新政権の外交戦略」、二〇〇一年二月二日、『山形新聞』
北方領土は段階的解決を、二〇〇一年二月一七日、『朝日新聞』
窓、「カントの故郷」、二〇〇一年二月八日、『朝日新聞』
窓、「ＣＩＡ文書公開」、二〇〇一年三月二六日、『朝日新聞』
直言、「集団安保議論の時期」、二〇〇一年四月一三日、『山形新聞』
直言、「思い半世紀の負の遺産」、二〇〇一年七月〇四日、『山形新聞』
直言、「方向喪失した日本外交」、二〇〇〇年九月一二日、『山形新聞』
直言、「不透明な時代の到来」、二〇〇〇年一二月〇五日、『山形新聞』
直言、「五六年宣言」公開が必要、二〇〇一年二月二〇日、『山形新聞』
潮流、「中央アジアに新しいアプローチを」、二〇〇二年三月三一日、『信濃毎日新聞』
直言、「対ロ政策に国民的議論」、二〇〇二年五月〇一日、『山形新聞』

書評、「クレムリンの五〇〇日」、二〇〇二年四月二八日、『北海道新聞』
直言、「米ロ新関係に注目」、二〇〇二年七月一七日、『山形新聞』
直言、「訪朝好機無駄にせず」、二〇〇二年九月二〇日、『山形新聞』
書評「日露外交」、二〇〇二年一〇月二七日、『北海道新聞』
直言、「東アジアに共同体形成」、二〇〇二年一二月〇四日、『山形新聞』
直言、「激変する大学の役割」、二〇〇三年二月一二日、『山形新聞』
直言、「愚行か新紛争処理か」、二〇〇三年四月一六日、『山形新聞』
小泉・プーチンに希望の光は見えるか、座談会（小島敦、吉田進、上月豊久と）、二〇〇三年五月、『外交フォーラム』、一六巻五号一八―二八頁、
直言、「六者協議、日本に試練」、二〇〇三年八月二七日、『山形新聞』
ソ連・ロシアから見た北朝鮮、二〇〇三年一〇月、『日本記者クラブ会報』、一二〇巻一―一二号
直言、「予想難しい六者協議」、二〇〇三年一一月七日、『山形新聞』
直言、「冷戦の残滓取りはぶけ」、二〇〇四年一月二八日、『山形新聞』
モスクワの合意―強い国家が産業再建へ改革、二〇〇四年四月二五日、『信濃毎日新聞』
直言、「経済モード転換の表れ―プーチン政権二期目」、二〇〇四年三月二六日、『山形新聞』
直言、「小泉訪朝再論」、二〇〇四年五月二六日、『山形新聞』
潮流、「ソ連の核問題とアジア冷戦史」、二〇〇四年八月一九日、『信濃毎日新聞』
直言、「加速する東アジア共同体」、二〇〇四年八月二四日、『山形新聞』

プーチン政治と日ロ関係、二〇〇四年九月、『経済 Trend』、五二巻九号
カフカス安定国際的関与を、二〇〇四年九月八日、『信濃毎日新聞』
問題はロシアを超えた—北オセチアのテロと今後、二〇〇四年一〇月、『朝日新聞』
直言、「大衆迎合型政治の時代」、二〇〇四年一〇月二八日、『山形新聞』
北オセチヤ・テロ事件はなぜ起きたか、二〇〇四年一一月、『潮』、一一八—一二一頁
安定軌道に乗れるのか、プーチンの新しいジレンマ、二〇〇四年一二月、『中央公論』、一二一—一三〇頁
直言、「不透明な東アジア情勢」、二〇〇五年四月一九日、『山形新聞』
平和条約へ力生む可能性、二〇〇五年五月二九日、『北海道新聞』
直言、「日韓関係より高次に」、二〇〇五年六月九日、『山形新聞』
直言、「あいまいな領土処理」、二〇〇五年八月四日、『山形新聞』
露流のすすめ、二〇〇五年三月、『都市問題』巻頭言、九六巻三号一—頁
月曜評論、「日ロ関係—交渉の時」、二〇〇五年一〇月五日、『信濃毎日新聞』
直言、「試練の戦後処理」、二〇〇五年一〇月二五日、『山形新聞』
直言、「アジア戦略立て直せ」、二〇〇六年一月一九日、『山形新聞』
直言、「ロシアと普通の隣国に」、二〇〇六年三月二三日、『山形新聞』
ロシアのエネルギー政治、二〇〇六年三月二三日、『信濃毎日新聞』
直言、「欧州化進むブリガリア」、二〇〇六年五月二三日、『山形新聞』
直言、「「北」問題、玉虫色の決着」、二〇〇六年七月二七日、『山形新聞』

直言、「北欧に学ぶ解決策」、二〇〇六年九月〇五日、『山形新聞』
解説「ロシアとどう向き合うべきか」、ロデリック・ライン、ストルーブ・タルボット、渡邊幸治共著『プーチンのロシア』、二〇〇六年一一月、二六五―二七三頁
直言、「東アジアの危機」、二〇〇六年一一月三〇日、『山形新聞』
富と権力をめぐる争い―もう一人のリトビネンコ氏、二〇〇六年一二月八日、『信濃毎日新聞』
直言、「日ロ関係転換の年」、二〇〇七年二月六日、『山形新聞』
直言、「日ロ、日朝の関係注視」、二〇〇七年四月一七日、『山形新聞』
日露共生の新たなあり方、二〇〇七年四月、『しゃりばり』、一九―二四頁
書評、「悲しみの収穫　ウクライナ大飢饉、ロバート・コンクエスト」、二〇〇七年七月、『諸君』
直言、「日ロの大枠作るとき」、二〇〇七年六月一四日、『山形新聞』
直言、「超党派外交を考えよ」、二〇〇七年八月〇一日、『山形新聞』
後継絞り込みはまだ、二〇〇七年九月二〇日、『北海道新聞』
直言、「日ロ政治に共通性」、二〇〇七年一一月二九日、『山形新聞』
月曜評論、「ロシアの古儀式派」、二〇〇七年一二月二八日、『信濃毎日新聞』
耕論、「メドベージェフのロシア」、二〇〇八年一月二七日、『朝日新聞』
直言、「二頭仕立て「ロシア新体制」、二〇〇八年一月二九日、『山形新聞』
プーチン・ロシアの今後を観る、二〇〇八年二月、『公明新聞』
ロシア大統領にメドベージェフ氏―ペレストロイカ世代登場、二〇〇八年三月二三日、『信濃毎日新聞』

直言、「目が離せぬ米大統領選」、二〇〇八年三月二〇日、『山形新聞』
米ロ関係再考—信頼の糸繋いだ首脳会談、二〇〇八年四月一七日、『信濃毎日新聞』
直言、「望まれる新対ロ政策」、二〇〇八年五月一三日、『山形新聞』
直言、「日ロ関係に新次元」、二〇〇八年七月一〇日、『山形新聞』
直言、「北方領土解決急げ」、二〇〇八年八月一二日、『山形新聞』
潮流、「グルジアとの紛争」、二〇〇八年八月一五日、『信濃毎日新聞』
経済教室、「混迷グルジア情勢と国際関係」、二〇〇八年九月、『日本経済新聞』
Mirnyi dogovop neobkhodim, Nevavisimaya gazeta, 2008, September, 二〇〇八年九月
直言、「変貌するロシア—多極への移行見据える」、二〇〇八年九月一八日、『山形新聞』
インタビュー「川奈会談と同じ構図」、二〇〇八年九月一八日、『北海道新聞』
インタビュー「グルジア紛争の背景は」、二〇〇八年九月一九日、『北海道新聞』
直言、「米一極支配に変化—ロシアから見る金融危機」、二〇〇八年一〇月三〇日、『山形新聞』
月曜評論「米一極主義から転換も」、二〇〇八年一一月二三日、『信濃毎日新聞』
直言、「世界政治経済の混沌」、二〇〇八年一二月一八日、『山形新聞』
潮流、「日韓首脳会談を読む」、二〇〇九年一月一四日、『信濃毎日新聞』
タンデムクラシー試論—ロシア政治における制度化とデモクラシー、二〇〇九年二月、『未来』、二〇〇九年〇四号二四—三二頁
高まる資源ナショナリズム、二〇〇九年二月、『日本海新聞』

直言、「日ロ交渉、大きな転機」、二〇〇九年三月〇五日、『山形新聞』
「空白」と「記憶」―ウクライナ飢饉と歴史認識、二〇〇九年四月、『国際問題』巻頭言、二〇〇九巻〇四号一―三頁
G20サミット後、二〇〇九年四月二六日、『信濃毎日新聞』
直言、「核全廃へ鍵握る米ロ」、二〇〇九年四月一六日、『山形新聞』
東西統合とロシア、二〇〇九年五月、『学術の動向』、五巻五一―五二頁
直言、「太平洋＝ユーラシアの時代」、二〇〇九年六月一八日、『山形新聞』
米ロの核放棄交渉促進を、二〇〇九年六月二〇日、『信濃毎日新聞』
新国際無秩序のなかのロシア、二〇〇九年七月、『現代の理論』、二〇巻夏号四三―五一頁
オピニオン、「官僚政治か政党政治か―冷戦終焉二〇年」、二〇〇九年八月二八日、『山形新聞』
平和条約―拙速は避けて、二〇〇九年一〇月一一日、『信濃毎日新聞』
直言、「民主政権下の日本―外交面で新手法見えず」、二〇〇九年一〇月二九日、『山形新聞』
冷戦終焉二〇周年の冷戦論争、二〇〇九年一二月、『歴史評論』、二〇〇九年一二号四―一四頁
直言、「新しい東アジア時代へ」、二〇〇九年一二月二四日、『山形新聞』
「纏める力」問われる時代に、二〇一〇年二月、『公明』、二〇一〇年〇二号一〇―一五頁
ロシアの転換―避けられない政治改革、二〇一〇年二月二一日、『信濃毎日新聞』
直言、「ウクライナ変動の象徴―揺り戻し親ロ派政権に」、二〇一〇年三月〇九日、『山形新聞』
ソ連崩壊とロシアの行方、二〇一〇年三月、『神奈川大学評論』、六五巻五四―六一頁
日露戦争と古儀式派、二〇一〇年四月、『情況』、二〇一〇年四号一五一―一六三頁

直言、「スタン地域独自改革を」、二〇一〇年五月一一日、『山形新聞』
直言、「深刻化する赤字体質―国家破綻の危機に備えよ」、二〇一〇年七月〇一日、『山形新聞』
現代化をめぐる米ロ関係、二〇一〇年七月一六日、『信濃毎日新聞』
直言、「抑留問題を考える」、二〇一〇年八月二四日、『山形新聞』
転換期迎える米ロ関係、二〇一〇年九月、『東京新聞』
領土問題に翻弄された一ヶ月、二〇一〇年一〇月一七日、『信濃毎日新聞』
直言、「後継選出に違和感」、二〇一〇年一〇月二一日、『山形新聞』
日ロ首脳会談―関係改善は経済から、二〇一〇年一一月一四日、『北海道新聞』
ソ連の原爆開発と日本、二〇一〇年一二月〇九日、『北海道新聞』
激変した国際環境―超大国中国は範示せ、二〇一〇年一二月一四日、『山形新聞』
直言、「日ロ交渉」、二〇一一年二月二四日、『山形新聞』
ロシアの政治経済情勢、二〇一一年三月、『日本貿易会月報』、六九〇巻三号三〇―三三頁
チェルノブイリとフクシマ、平成二三年四月一四日、『信濃毎日新聞』
きしむロシア二頭体制、二〇一一年四月、『日本経済新聞』
大震災が転換促す日ロ関係、二〇一一年五月、『公明』、二〇一一巻五号三二―三七頁
直言、「日ロ関係改善の好期」、二〇一一年五月一二日、『山形新聞』
アジア冷戦と北方領土問題、二〇一一年六月、Forum Opinion、一三巻一八―二九頁
アジアの核―ウィキリークス外交公電分析、二〇一一年六月、『朝日新聞』

直言、「世界を揺るがす中国」、二〇一一年七月一四日、『山形新聞』
レーニンと宗教上下、二〇一一年八月、『キリスト教新聞』
九年ぶりのロ朝首脳会談、二〇一一年八月二六日、『信濃毎日新聞』
直言、「東へ向くロシアのガス」、二〇一一年九月二七日、『山形新聞』
直言、「転換期の世界」、一一月一七日、『山形新聞』
プーチン氏大統領復帰へ、二〇一一年九月二八日、『信濃毎日新聞』
オピニオン、「転換期の世界、中ロが鍵」、二〇一一年一一月一七日、『山形新聞』
新・「危機の二〇年」―ソ連崩壊二〇周年によせて、二〇一一年一一月、『ロシアＮＩＳ調査月報』一―一〇頁
プーチン体制を決めたロシアとどうつきあうか、二〇一二年一月、『公明』二六―三二頁
オピニオン、「ロ大統領選　民意の行方は」、二〇一二年一月二四日、『山形新聞』
原爆とソ連の核開発、二〇一二年一月、『外交』、一一巻九四―九六頁
国後で日ロ共同研究を、二〇一二年一月三〇日、『北海道新聞』
最近のロシア情勢と東アジア、二〇一二年二月、『汎交通』、一一二巻二号二―二六頁
政治の世代代わり期待―岐路に立つプーチン・ロシア、二〇一二年二月一九日、『信濃毎日新聞』
識者評論（共同配信）、ロシア大統領選―安定支配、国民が支持、二〇一二年三月、『秋田魁新聞』（共同配信）
直言、「日ロ交渉、体制整備急げ」、二〇一二年三月二〇日、『山形新聞』
プーチン、大統領復帰後の課題、二〇一二年五月、『公明』、六八―七一頁
直言、「アジアに軸足移すロシア」、二〇一二年五月一〇日、『山形新聞』

オピニオン、「日ロ関係、新たな段階」、二〇一二年七月〇五日、『山形新聞』
プーチンⅡ、保守的改革の再登場と課題、二〇一二年七月、『国際問題』、六一五巻八―一五頁
直言、「曖昧」あと引く領土問題、二〇一二年八月三〇日、『山形新聞』
スターリンの個人崇拝が生んだ「超大国ソ連」神話、二〇一二年九月、増刊『エコノミスト』、一〇巻八号
ペレストロイカに内在していたソ連崩壊、二〇一二年九月二四日、増刊『エコノミスト』、一〇巻八号
直言、「ロシアを新たな隣人に」、二〇一二年一〇月二五日、『山形新聞』
ロシアとEU―二一世紀の課題、二〇一二年一一月、『神奈川大学評論』、七三号七五―八一頁
歴史家対話、二〇一二年一一月五日、『潮』、一二号
直言、「超党派合意で改革推進」、二〇一二年一二月二〇日、『山形新聞』
直言、「プーチン」流、どう理解、二〇一三年二月二一日、『山形新聞』
モスクワは涙を信じない、二〇一三年三月一四日、『信濃毎日新聞』
直言、「日中ロ外交、新たな局面」、二〇一三年四月一六日、『山形新聞』
経済教室、「対ロシア関係、新段階へ」、二〇一三年四月、『日本経済新聞』
「耕論、始まった日ロ新時代」、二〇一三年五月四日、『信濃毎日新聞』
直言、「日ロ国境、共栄の道模索」、二〇一三年六月一一日、『山形新聞』
ロシア史「古儀式派」の切り口、二〇一三年七月、『読売新聞』
直言、「日ロ政権に「並行」現象」、二〇一三年七月三〇日、『山形新聞』
ロシア極東の将来性、二〇一三年一〇月一九日、『信濃毎日新聞』

直言、「台頭、混乱のイスラム圏」、二〇一三年九月一七日、『山形新聞』
潮流、「レナ川のほとりで」、二〇一三年九月一二日、『信濃毎日新聞』
直言、「日ソ外交、広がる北の窓」、二〇一三年一一月七日、『山形新聞』
日ロ、巨視的変動の枠で理解を、二〇一三年一一月一七日、『信濃毎日新聞』
北朝鮮の粛清劇—金王朝最終章の始まり、二〇一三年一二月一四日、『信濃毎日新聞』
直言、「北極海航路、世界が注目」、二〇一三年一二月二四日、『山形新聞』
直言、「日ロ関係の強化へ弾み」、二〇一四年二月一三日、『山形新聞』
ウクライナ二月革命の行方、二〇一四年二月二八日、『信濃毎日新聞』
インタビュー・ウクライナ情勢、二〇一四年三月四日、『北海道新聞』
経済教室、「ウクライナ危機」、二〇一四年三月一〇日、『日本経済新聞』
座談会「ロシア、クリミア編入」、二〇一四年三月二一日、『毎日新聞』
直言、「危惧される第二次冷戦」、二〇一四年三月二五日、『山形新聞』
ウクライナ問題収束させるには、二〇一四年三月二七日、『信濃毎日新聞』
ロシアの東方シフトを考える、二〇一四年三月、編著『ロシア極東・シベリア地域開発と日本の経済安全保障』、国際問題研究所
ロシアの太平洋戦略と安倍外交、二〇一四年三月、『外交』、二四巻二九—三三頁
現代のウクライナ問題の理解を深める歴史書、二〇一四年五月、『エコノミスト』、八〇—八一頁
直言、「ウクライナ危機、深刻に」、二〇一四年五月一三日、『山形新聞』

勝利者なきウクライナ紛争、二〇一四年五月二八日、『信濃毎日新聞』
「危機の背景にあるもの」、二〇一四年六月、『新聞研究』、七五五巻三八―四二頁
直言、「ロシアの東方シフト生かせ」、二〇一四年七月一日、『山形新聞』
直言、「ウクライナ停戦」論じよ、二〇一四年八月一四日、『山形新聞』
ウクライナ危機と今後の『世界』、二〇一四年八月、『中日懇話会報』、四七一巻一―四八頁
ウクライナ問題とは何か、二〇一四年九月、『學士學会報』、九〇八巻四四―四八頁
直言、「脱欧入亜、険しい道のり」、二〇一四年一〇月七日、『山形新聞』
二つのキリスト教『世界』、二〇一四年一一月、『アステイオン』、八一号一四四―五八頁
直言、「強大化する中国。世界注視」、二〇一四年一一月二五日、『山形新聞』
ロシア世界とウクライナ危機、二〇一四年一二月、『情況』
直言、「混沌世界　衝突から対話へ」、二〇一五年一月二〇日、『山形新聞』
直言、「環日本海交流を活発に」、二〇一五年三月五日、『山形新聞』
ウクライナをめぐるロシアの政治エリート（一九九二―二〇一四）、二〇一五年三月、『ロシア・東欧学会年報』、四三巻二一―四二頁
ロシアと北朝鮮、二〇一五年四月一六日、『東亜』、五七四巻四二―四九頁
直言、「世界を揺るがすプーチン氏」、二〇一五年四月二一日、『山形新聞』
直言、「安全保障の枠組み新たに」、二〇一五年六月九日、『山形新聞』
直言、「世界の行方が見えない」、二〇一五年七月二一日、『山形新聞』

プーチンとロシア世界、二〇一五年九月、『善隣』、七二六巻二―九頁
ウクライナ危機とロシア、二〇一五年九月、『防衛学研究』、五三号二三―三〇頁
直言、「日ロ関係歴史的整理を」、二〇一五年九月三日、『山形新聞』
ロシア国内政治思想に変化、二〇一五年一〇月八日、『信濃毎日新聞』
直言、「影落とす宗教・宗派対立」、二〇一五年一〇月一五日、『山形新聞』
直言、「対テロ　国際協調不可欠」、二〇一五年一一月二四日、『山形新聞』
ロシアはアジアを目指す、二〇一五年一二月、『潮』、一一号四八―五三頁
直言、「アジアの和解例を世界に」、二〇一六年一月一二日、『山形新聞』
ロシア外交に紛争収拾の動き―伊勢志摩で解決の糸口を、二〇一六年一月二八日、『信濃毎日新聞』
ロシア・グローバル政治の中で存在感を示すプーチン、二〇一六年二月、『公明』、四二―四七頁
直言、「紛争千年単位の宗教問題」、二〇一六年二月二三日、『山形新聞』
一〇〇〇年越しの和解―キリスト教トップ初会談、宗教利用したい米露、二〇一六年三月一日、『エコノミスト』
敗戦時の日ソ関係、二〇一六年三月、『近代熊本』、三八巻三―二四頁
ロシアと欧州岐路、二〇一六年三月、『神奈川大学評論』、八三巻、七四―八一頁
翻訳、D．V．ストレリツォフ「戦後のロシアと日本のアイデンティティ」、二〇一六年三月、京都産業大学『世界問題研究所紀要』、三一巻一〇五―一一七頁
直言、「ロシア抜きに語れない」、二〇一六年四月五日、『山形新聞』
Keynote Addresses: Northeast Asia and the International Community at a Turning Point in the Postwar In-

ternational Order and Economy（特集二〇一六北東アジア経済発展国際会議（ＮＩＣＥ）イン新潟）、二〇一六年四月二八日、Erina report, 一二九巻六五―六八頁

直言、「求められるヒトへの投資」、二〇一六年五月一二日、『山形新聞』

Ｇ７からＧ８へ、そしてＧ７への回帰？ロシアとサミット、二〇一六年五月、『国際問題』、六五一号二二―三〇頁

直言、「日ロ新アプローチ　『潮』目に」、二〇一六年六月二一日、『山形新聞』

日ロ関係の機は熟した、二〇一六年七月、『外交』、三八巻一〇八―一一三頁

直言、「主義の対峙、文化に亀裂」、二〇一六年八月四日、『山形新聞』

座談会、日露経済関係の新たな展望を切り拓く、二〇一六年八月、『月刊経団連』、六―二一頁

識者評論、「平和条約、締結は難路」、二〇一六年九月七日、『静岡新聞』等共同通信各紙

直言、「走り始めた日ロ関係」、二〇一六年九月一三日、『山形新聞』

日露は新時代を迎えるか、二〇一六年九月六日、『潮』

ひもとく、「日ソ共同宣言六〇年」、二〇一六年一〇月九日、『朝日新聞』

政権安定「歩み寄り」整う、二〇一六年一〇月一九日、『読売新聞』

直言、「未来志向の日ロ関係を」、二〇一六年一〇月二五日、『山形新聞』

インタビュー「北方領土交渉の行方」、二〇一六年一二月三日、『朝日新聞』

直言、「英米主導の世界の終わり」、二〇一六年一二月六日、『山形新聞』

経済教室、「日ロ首脳会談の焦点（一）、北方領土　共同経済活動カギ」、二〇一六年一二月七、『日本経済新聞』

日ロ交渉　北方―平和条約交渉に見通し開く、二〇一六年一二月二五日、『現代の理論』、三五号一五〇―一五八頁

ロシア革命一〇〇年、権力と宗教、二〇一七年三月、『神奈川大学評論』、八六巻四七―五四頁
新市場「ロシア」、二〇一七年四月、梅津哲也編著
インタビュー、ロシア正教古儀式派、異端派が動かした帝政とソ連のあゆみ、二〇一七年九月二三日、『東京新聞』
プーチン政治と地政学、二〇一七年九月、『現代思想』、四五巻一八号七一―七七頁
イワノボへの道―南原繁と対ソ講和論、二〇一七年九月、UP、五三九巻四〇―四六頁
ロシア革命におけるロシア性、二〇一七年一〇月、『現代思想』、四五巻一九号一二四―一二九頁
古儀式派とロシア革命の再構成、二〇一七年一〇月、『現代の理論』、一一〇―一一五頁
問われる会談「後」の成果、二〇一七年、『外交』、四一号二四―二七頁
直言、「北朝鮮問題複雑な展開」、二〇一八年二月一日、『山形新聞』
日本とロシアの経済協力は創造的視点を持て、二〇一八年三月、『公明』、一四七巻一六―二一頁
直言、「米ロ矛盾をうむ相互不信」、二〇一八年三月一五日、『山形新聞』
経済教室「大統領選挙後のロシア―多極世界で主導権を模索」、二〇一八年三月二九日、『日本経済新聞』
直言、「活発さを増すスパイたち」、二〇一八年五月一日、『山形新聞』
Inside and Outside the Achieves: New Developments in Research on Contemporary China、二〇一八年五月
直言、「半島、意味ある米朝対話」、二〇一八年六月七日、『山形新聞』
ロシアから見た国際平和、二〇一八年七月、『神奈川大学評論』、九〇巻五三―六一頁
直言、「トランプ外交どこへ行く」、二〇一八年七月三一日、『山形新聞』
直言、「行き詰まる非核化交渉」、二〇一八年九月一一日、『山形新聞』

直言、「神の乱心　世界政治乱れ」、二〇一八年一〇月二三日、『山形新聞』
直言、「「二島返還」優先に舵切る」、二〇一八年一一月二〇日、『山形新聞』
新冷戦か、多極化世界の時代か、二〇一九年一月、『現代の理論』、一〇六―一一二頁
最後の機会、生かせ、二〇一九年一月一二日、『毎日新聞』
ロシアとウクライナ―対立深化の背景に宗教分裂、二〇一九年一月二二日、『エコノミスト』、八七頁
国境線の決断、条約への道、二〇一九年一月二四日、『読売新聞』
直言、「新日ロ交渉」は時間必要、二〇一九年一月三一日、『山形新聞』
直言、「冷戦終焉三〇年　再び岐路」、二〇一九年五月二日、『山形新聞』
直言、「米中貿易摩擦　新冷戦か」、二〇一九年六月一三日、『山形新聞』
座談会、「歴史空間の三〇年」（小森田秋夫、的場昭弘と）、『神奈川大学評論』、九三巻、七月、二〇一九年五―三八頁
直言、「米の核対応圧力に差異」、二〇一九年八月一日、『山形新聞』
直言、「ノモンハン八〇周年浮かぶ真実」、二〇一九年九月一〇日、『山形新聞』
書評、「ウイリアム・トーブマン著、ゴルバチョフ」、二〇一九年八月一二日、『公明新聞』
直言、「ベルリンの壁崩壊三〇年、陶酔どこへ」、二〇一九年一一月五日、『山形新聞』
直言、「カトリックの政治力」、二〇一九年一二月三日、『山形新聞』

Ⅴ　報告、講演など

Internationalism or Nationalism in the Soviet Union-"The Song of the Lord of Igor in the eye of a Kazakh Poet", 23 February, 1983, Slavic Center Meeting in honor of Pro. Nekrich

A note on the Kuban Affair (1932–1933): The Crisis of kolkhoz Agriculture in the North Kavkaz, 19 July, 1983, Birmingham University, CREES

日ソ歴史家会議、一九八七年六月一二日、下斗米ＮＥＰの終焉報告、ソ連邦、モスクワ

日中ソ連専門家会議、一九八七年八月二五日—九月九日、北京、ハルピンなどで意見交換

The Soviet Union and China, 13 November, 1987, US-Japanese Relations and the Soviet Union, Boston, USA

ソ連問題公開講座、一〇—一二月一九八七年、婦選会館

ペレストロイカの行方、一九八八年四月、日本海運倶楽部第一九四会講演会

ペレストロイカと新しい思考、一九八八年五月二九日、中国研究所研究大会

モスクワ・サミット後のソ連外交政策、一九八八年六月、ＮＩＲＡ

ソ連をめぐる国際情勢と日ソ問題、1988, November 11, US-Japanese Relations and the Soviet Union, Hawaii USA

Perestroika-The Second Breath, 6 December 1988, Euro-Japanese Symposium on Soviet 'Perestroika', Chatam House, London

座談会、体制改革のなかの中国・ソ連・東欧、一九八九年一月二三日、『現代の理論』座談会　体制改革のなかの中国・ソ連・東欧

ペレストロイカと政治改革：一九八八、一九八九年二月三日、北大スラブ研究センター・シンポジウム

レオンハルト、下斗米対談（一月一九日）「ペレストロイカ成功の鍵」、一九八九年三月一七日、『外交フォーラム』
日米ペレストロイカ討論（Ｍｃジョージ・バンディ、Ｓ・ビアラーらと）、一九八九年三月一七日
ペレストロイカは世界を突き動かす、一九八九年七月、反核一〇〇〇人委員会
The New Thinking and the International System, 13 July 1989, Slavic research Center seminar, Sapporo
「ペレストロイカ革命一〇のテーゼ」、日ソ・シンポジウム『現代社会主義とペレストロイカ』、一九八九年一〇月一七日、学士会館
最近のソ連政治事情、一九八九年一一月、通産省研修会
新二月革命のペレストロイカ、一九九〇年二月一五日、専修大学講演
ソ連政情の展望、一九九〇年四月、第五回中日平和懇談会、北京
ソ連離脱の動き容認へ、一九九〇年五月、中日懇話会
ペレストロイカを考える、一九九〇年五月一五日、司法研修所
新聞時評、「海の軍縮」意義の解説不十分、一九九〇年五月、毎日新聞
ソ連・東欧情報と日本、一九九〇年六月一日、平成二年度官民幹部合同セミナー、那須
歴史の見直しと抑留問題、一九九〇年六月二〇日、シベリア抑留シンポジウム、東京
ソ連の民主化における情報化のインパクト、一九九〇年六月、高度情報化社会研究懇談会第二回勉強会
ソ連共産党第二八回党大会、一九九〇年八月、『世界週報』座談会
24 July, Harrogate, ICCEES, UK
アジアにおいて社会主義とは何であったか、一九九〇年一一月、アジア政経学会

九〇年代のソ連、一九九〇年一一月、中日サロン、名古屋
最近の国際情勢とペレストロイカ、一九九〇年一一月、千葉県庁町村長・自治研修会
アジア新時代と日ソ関係、一九九一年一月一五日、日ソ円卓会議、東京
どうなるソ連の政治経済、一九九一年二月、世田谷市民大学講座
ソ連の課題と展望、一九九一年三月、日本の課題と選択・研究委員会
ソ連外交の新旋回、一九九一年四月、第五回アジアの平和・日中懇談会
パネル・ディスカッション、一九九一年四月、「日ソ関係　今日と明日」
新思考外交の新展開、一九九一年四月、日本国際問題研究協会
九〇年代を見通す視点―ボーダーレスとボーダーフル、一九九一年七月、電通フォーラム
Recent Crisis in the USSR, The 1991 Hawaii International Conference of legislator, Journalists and Scholars, 18–21 August 1991, Hawaii
新連邦の現在と将来、一九九一年九月一九日、尾崎行雄記念財団、東京
新連邦は可能か、一九九一年一〇月二三日、九州国際大学法経学会学術講演会、九州国際大学『法経研究』一―四十一頁
「世界の潮流」八月革命後の連邦、一九九一年一一月二〇日、全電通
八月革命後の連邦の改革、一九九一年一一月、第二回カントリー・リスクセミナー
クーデター後のソ連を読む、一九九一年一二月四日、千葉県生産性本部
From August to the Formation of the Commonwealth, 9–11 January, 1992, The Second Japan-Commonwealth

Conference of Political Scientist, Moscow

エリツィン改革と極東、一九九二年三月、綜合研究所講演

成蹊大学アジア太平洋センター主催「アジアとヨーロッパにおけるデモクラシーの未来」、一九九二年三月、「アジアとヨーロッパにおけるデモクラシーの未来」、東京

ソ連崩壊後の現状と今後の行方、一九九二年四月二日、鋼材倶楽部

ロシア改革のゆくえ―ソ連邦崩壊後の国際情勢との関連、一九九二年五月、長野県退職校長会総会、長野

“From August to the Formation of the Commonwealth”. Or was the “Revolution” Really Revolution?, 4 May 1992, Suzdal International Scientific and Theoretical Seminar, Russia

Russian Political Crisis-Is Yeltsin phenomenon II possible?, May 1993, Moscow Russo-Japanese Symposium of Political Scientists

Stalin and the Rise of Japanese Militarism, September, 1993, Soviet - Japanese Relations 1920s–1940s: Two World Visions

ロシアの地域主義、一九九四年一月、スラブ研究センター「冬季研究報告会」

ロシア・東欧の動向と国際関係、一九九四年一〇月、第二四回ロシア・東欧学会

青森県と環日本海構想、一九九五年九月八日、青森県法政大学公開講演会

国会選挙はロシアの社会的政治的安定をもたらすか、一九九五年一二月、ロシア極東エネルギー研究会

ロシア下院議員選挙（一九九五年一二月）―若干の予備的総括、一九九六年一月、北大スラブ研究センター

ロシア極東における政治情勢、一九九六年三月、環日本海経済研究所、新潟

ロシアの大統領選挙・その脈絡、一九九六年四月、国際労働運動研究協会、東京
ロシア改革の課題、一九九六年四月、第九回アジアの平和・日中懇談会、北京
ロシアの改革と選挙、一九九六年四月、大蔵省トップセミナー
「大国」ロシアの改革、一九九六年五月、第一三四回管理者研究会
大統領選挙をめぐるロシア情勢、一九九六年七月、霞山会、東京
日露共生の新たなあり方、一九九七年一月、環オホーツク海国際シンポジウム
モスクワ―一つの建物・二つの時代、一九九七年四月、明治大学綜合講義・都市―迷宮のラフヌール
エリツィン内政の一年間を振り返って、一九九七年六月、防衛研究所研究会
体制変容の政治社会学、一九九七年七月、体制変容下のスラブ・中国
ロシア改革の循環―利益分化と政治統合、一九九七年一〇月、第二六回　ロシア・東欧学会
第三回アジア・フーラムジャパン「日米中露四カ国関係と東アジアの将来」、一九九七年一〇月
日本、ウズベキスタン、ロシア、米国の政治と外交、一九九七年一二月、法政―ウズベク東洋研シンポ
Russian Change and Russo-Japanese Relations, May 1998, International Situation in Asia Pacific and Sino-Japanese Relations, Beijing
タタールスタン―一六番目の共和国になれなかった国、一九九八年六月、第一回日本比較政治学会創設大会報告
Security Cooperation between Japan and Korea (panel discussant), August 1998. Prospect for Cooperation between Japan and Korea, Seoul
Japanese and German Foreign Policies in Comparative Perspective, September 1998, 3rd German and Japanese

symposium in International Relations, Germany
一九九九年のロシア、一九九八年一二月、ＩＷＩ第三三回会議
ロシアから見た大国関係、一九九九年二月、日米中露研究会、東京
日本国際政治学会・ロシア東欧分科会、一九九九年五月、日本ロシア・東欧研究連絡協議会発足記念シンポジウム、札幌
ロシア・「移行」の危機、一九九九年五月、日本国際政治学会研究大会・部会Ａ−１金融危機と国際政治
コソボ紛争と日本、一九九九年六月、英国、ディッチリー会議
エリツィンとエリツィン後、一九九九年一〇月、連続講演会「どうなる日本、どうする北海道」、札幌
二〇世紀世界の誕生、一九九九年一〇月、第七回近現代史フォーラム、東京
エリツィン時代の終わり—ミレニアムの政治転換、二〇〇〇年一月、国際金融情報センター
Political Changes in the Millennium, The End of Yeltsin Era、二〇〇〇年二月
東と西の間のロシア、二〇〇〇年四月、新しい世界秩序
変化を待つロシア、二〇〇〇年四月、自由社
ロシアと北朝鮮、二〇〇〇年九月、文化学院
プーチンのロシア、二〇〇〇年一二月、対文協第三一会議
Democracy Betrayed? Russia's difficult path to Democracy, March 2001, The Third conference of the Global Democracy, Paris
ソ連崩壊後の十年、二〇〇二年一月、北大スラブ研究センター冬季シンポ

日ロ関係のリ・ストラクチャリング（対談）、二〇〇三年二月、『公研』対談
選挙制度、二〇〇三年六月、タジキスタン国会運営セミナー、東京
A Reappraisal of the Korean War "Soviet Foreign Policy and the Korean War" 二〇〇三年六月
イラク戦争後の北東アジアと日ロ関係、二〇〇三年六月、対文協
ソ連・ロシアと北朝鮮、二〇〇三年八月、日本記者クラブ研究会「北朝鮮」、東京
The Soviet Union, Asian Cold War and the UN, December 2003, The Role of the UN in International Politics, Sapporo
ロシア大統領選挙後の政権、二〇〇四年三月、日本対外文化協会
ポーツマスの平和、日露戦争後の日ロ関係―一〇〇周年サンクト・ペテルブルグ国際会議、二〇〇四年三月、日露戦争一〇〇周年サンクト・ペテルブルグ国際会議
(In Russian), Japanese Eurasian Diplomacy、二〇〇四年三月、東京
日露賢人会議、二〇〇四年四月、モスクワ
第二回日本・ロシア学術報道関係者会議、二〇〇四年九月、日本・ロシア学術報道関係者会議、モスクワ
Popular, But Not Necessary Populist Leadership: Putinism in a Post-Transitional Regime Comparison, October 2004, Japan Association of Political Science, Korea-Japan Joint Cession
第二回日本・ロシア学術報道関係者会議、二〇〇四年一二月、日本・ロシア学術報道関係者会議、プーチン訪日と北東アジア
北東アジア冷戦と日本（一九四五―五六）、二〇〇五年三月、外交史料館講演会

ロシアはどこへ、二〇〇五年五月、日ロ学生会議

韓日正常化四〇周年国際学術会議、二〇〇五年六月、韓日正常化四〇周年国際学術会議（ソウル）

Soviet Factors in the Formation of the North Korean Politics, July 2005, 7th Korean Political Science Association Academic Conference, Seoul

2005 WISC International Symposium, Pyongyang: 1956–deStalinization and the Kim Il Sung Regime, August 2005, WISC International Congress, Istanbul

2005 KAIS International Symposium, Non-Governmental 6 party Talks on Cooperation in North East Asia, October, 2005

ポーツマス講和と東アジア、二〇〇五年一〇月、山梨学院創立六〇周年、ポーツマス講和と東アジア

第六回日露国際シンポジウム、二〇〇五年一一月、第六回日露国際シンポジウム（イルクーツク、ロシア）

プーチン大統領訪日と日ロ関係、二〇〇五年一一月、日本記者クラブ

第三回日本・ロシア学術報道関係者会議、二〇〇五年、日本・ロシア学術報道関係者会議

Cold War in Asia-with special emphasis on the Soviet-DPRK Relations, March 2006

民主主義は国際平和を作るか、二〇〇六年七月、博多・日本政治学会研究会

New Initiatives for Solving their Northern Territories Issue between Japan and Russia

二〇〇六年八月

In the Wake of the 1956 Incident: North Korea and China 1956–1961, September 2006, Limits of the “Lips and Teeth Alliance”: The Antinomies of the Chinese-North Korean Relations, Yale Univ.,

ＩＳＡ／ＫＡＩＳとの合同ラウンド・テーブルによせて、二〇〇六年一〇月、日本国際政治学会
第四回日本・ロシア学術報道関係者会議、二〇〇六年一〇月、日本・ロシア学術報道関係者会議
日ソ国交回復五〇周年記念日ロフォーラム（円卓会議）、二〇〇六年一〇月一九日、日本・ロシア学術報道関係者会議、モスクワ
第三回中日アジア情勢と平和問題懇話会、発言、二〇〇六年一一月、第三回中日アジア情勢と平和問題懇話会、北京
北朝鮮の核問題をめぐる日韓協力、二〇〇六年一一月、ＫＡＩＳ—ＪＡＩＲシンポジウム
日露共生の新たなあり方、二〇〇七年一月、環オホーツク海国際シンポジウム、札幌
今後のアジア外交の課題—北東アジアを中心に、二〇〇七年一〇月、全国市町村文化研究所、東京
プーチン政治の変容、二〇〇七年一一月、日本貿易会
ロシア・セミナー、二〇〇八年三月、ＪＥＴＲＯ・ロシア・セミナー
第一部　ガバナンス　発言、二〇〇八年五月、日本とロシア—新しい時代への展望
グルジア情勢座談会、二〇〇八年九月、毎日新聞
Valdai Club: Russia's Role in the Global Geopolitical Revolution of the early 21 century
September 2008, Valdai Club, Moscow
Soviet - DPRK Relations（1945–1972）、二〇〇九年一月
日本の政権交代の行方、二〇〇九年一二月、ロシア日本学会、モスクワ
タンデムクラシー（双頭支配）のロシア、二〇一〇年二月、ラヂオプレス講演会、東京
ボンチ・ブルエビッチと古儀式派、二〇一〇年四月、古儀式派研究会、東京

Japan and East Asia、二〇一〇年四月、国際交流基金客員招聘プログラム

冷戦と日本の共産主義：「モロトフ文書」に見る極東情勢（一九四九―一九五六）、二〇一〇年五月、一三六回現代史研究会（明治大学）

Integration and Disintegration in North East Asia in 1956–1972 with a special emphasis on the Soviet-DPRK relations

October 2010, National Unification and Regional Integration（30th Anniversary Conference of RC42), Seoul

ロシア、中国、そして日本、二〇一一年二月、経済社会総合研究センター

Beyond the Mirage of the Eastern Cominform: DPRK before and After the 1956 Incident

October 2011, China DPRK Relations during the Cold War: An International Conference

From the Crisis of Putinism to the fall of Tandemcracy

15 December 2011, 20 Years and Onward Post Soviet Russian Politics-Russian Research Center Hankug University, Seoul

現代世界と平和、二〇一一年一一月三日、長崎県立大学、長崎

プーチンⅡ　改革は可能か、二〇一一年一一月一一日、麗澤大シンポ、千葉

The Japanese Communist party in the Early Cold War: New Sources and Approaches

1 February 2012, Japan in the Cold War: Opening Japanese Achieves, Promoting New Approach（Sapporo, Slavic Center）

危機のなかのロシア大統領選挙、二〇一二年七月、ラヂオプレス講演会、東京

プーチンⅡ　政権と日ロ関係、二〇一二年八月一一日、日本エネルギー経済関係研究所、東京
古儀式派とロシア政治：日露戦争からソ連崩壊まで、二〇一三年二月二三日、東洋文庫講演会、東京
ソビエト国家と古儀式派・再論、二〇一三年一〇月六日、ロシア・東欧学会、ＪＳＥＥＳ合同大会、東京
プーチンⅡの政策と課題、二〇一三年一〇月二六日、日本国際政治学会
ロシアを読み解く新視点・古儀式派と現代、二〇一三年一〇月一九日、ＮＰＯ日ロ交流協会、東京
「新冷戦」を超えて―ウクライナ研究会、二〇一四年三月二〇日、日本記者クラブ、東京
第七八回東京財団シンポジウム、ウクライナ危機と今後の日露の戦略的関係、二〇一四年五月八日、シンポジウム、東京
バルダイ会議から戻って、二〇一四年一一月五日、日本対外文化協会、東京
シンポジウム、国際関係史ワークショップ、二〇一四年一一月一六日、国際関係史ワークショップ、東京
日ロのアイデンティティの比較研究、二〇一四年一一月、日ロのアイデンティティの比較研究、東京
ロシア極東・シベリア地域開発と日本の経済安全保障、プロジェクト趣旨説明、二〇一五年二月二五日、ＪＩＩＡ国際シンポ、東京
ロシアの最新事情について、二〇一五年五月一七日、日本とロシアの友好親善を求める愛知の会主催講演会、名古屋
Japanese Policy towards Russian Pivot to Asia, 14 May 2015, Developing Asia Pacific's Last Frontier
ウクライナ・ロシア・極東、二〇一五年六月五日、国際問題研究所
敗戦時の日ソ関係、二〇一五年八月一五日、熊本近代史研究会講演会、基調発表
The Territorial Issue among Japan, the US, and the Soviet Union from 1951–70, North Eastern Asia Normal

University

ベルジャーエフとロシア、二〇一五年九月三〇日、東アジア研究所

廣瀬陽子と対論、プーチン・ロシアの外交を読む、二〇一五年一〇月、『公研』

日ロ関係の現状と展望、二〇一五年一一月三〇日、経団連日ロ経済委員会

Second Policy Dialogue on the development of Russia's Siberia and Far East

25 November 2015, Second Policy Dialogue on the development of Russia's Siberia and Far East, Seoul

ユーラシアの胎動。プーチン・ロシアのめざすもの、二〇一五年一二月九日、戦後七〇年記念リレー講演（全電通会館）

Discussant: The Founding of the SRC and Rockefeller Foundation

10 December, 2015, Between History and Memory

戦後国際秩序・経済の曲がり角（国際社会と北東アジア）、二〇一六年一月二八日、第二五回北東アジア経済発展国際会議（基調講演）

プーチン再訪—思想と外交、二〇一六年二月二三日、対外文化協会

ロシアの現状と今後について、二〇一六年三月一四日、日本アカデメイヤ勉強会

Prof. Nobuo Shimotomai, The New Forms of Advanced Economic Cooperation in Eurasia

26th July, 2016, 24th World Congress of Political Science July 23–28, 2016 Poznań, Poland

北東アジアの国際関係とアーカイブ、二〇一六年九月二四日、第五回綜合アジア圏研究国際シンポジウム、東洋文庫

日ソ宣言六〇周年の課題、二〇一六年一〇月一七日、市民アカデミア二〇一六／連続講座

プーチン・ロシアを読む、二〇一六年一〇月、日本交通協会

Global Security Situation and Japan-Russia Cooperation, October 2016, 7th JIIA-MGIMO Conference (Tokyo, JIIA)

日ロ国交回復六〇周年・日露フォーラム、二〇一六年一〇月一七日、東京

プーチン政権と日ロ関係、二〇一六年一一月一六日、寺島文庫リレー塾・世界秩序の変更期

変わる世界と日ロ関係、二〇一六年一二月五日、日本新聞協会

21 December 2018、ロシア日本学国際学会年次総会（モスクワ）

日ロ関係史からみた首脳会談の成果と意義、二〇一七年二月二三日、ロシア経済セミナー二〇一七

二〇一七年の米ロ関係と日ロ関係、二〇一七年三月二三日、日本工業倶楽部

Speech at Primakov Readings, 30 May 2018, Primakov Readings

Pugwash Moscow conference, 1 June, 2018

Revolution of Raskol'nikov 21 December 2018、ロシア日本学国際学会年次総会（モスクワ）

Role of Japan and Russia on the development of the ATR, 4 March 2019, Japan and Russia: Mutual Cooperation on the development of ATR